学校法人千葉工業大学　令和元年度研究報告書

研究成果（概要）

学習を支える環境として、A.配慮を必要とする児童もふくめ一人一人が安心して集中できる学習環境の整備と、B.児童の自発的な学びを促す掲示・展示物の開発および活用について調査・取組を行った。A.では落ち着く居場所を設けたり「リラックスボックス」を設置することで、一定の効果が把握され、B.では大型掲示物や実験体験ができる環境を整備し活用した授業において、児童の意欲的な取組や、実感や当事者意識を伴う学びの深まりを確認することができた。

１．研究課題と調査・取組内容

（１）具体的な研究課題

A.配慮を必要とする児童もふくめ一人一人が安心して集中できる学習環境の整備

B.児童の自発的な学びを促す掲示・展示物の開発および活用

（２）研究課題に基づいて実施した調査・取組内容

A-1：特別な支援を必要とする児童の落ち着ける居場所づくり

A-2：児童がリラックスできる環境づくり

B-1：社会的事象への主体的興味を促す掲示物の提案

B-2：児童の主体的な深い学びを促す学習環境の整備

B-3：掲示物の効果検証に関する調査

２．効果検証内容・結果

（１）効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
A-1	児童の行動観察調査 担任教師のヒアリング調査	学力向上推進協議会	・ 当該児童の行動を観察して授業時にいる場所と時間の記録を行い、提案・改良した「落ち着く居場所」の効果を検証する。 ・ 担任教師にヒアリング調査を行い、居場所の効果を確認する。
A-2	ワークショップ参加者の感想 利用状況の把握 教師等へのヒアリング調査	学力向上推進協議会	・ 児童が安心して集中できる環境として「リラックスボックス」を製作するワークショップを実施して、参加者の評価を確認する。 ・ 導入後の評価・検証を行い、「リラックスボックス」等の活用状況や有効性を把握する。 ・ 保健室に設置した「リラックススペース」等についても同様に、評価・検証を行い、利用状況の把握と今後の課題について確認する。

B-1	児童へのアンケート調査 授業担当教員のヒアリング調査	学力向上推進協議会	・　６年生社会科（歴史）の単元を対象に児童らの参加を促すようデザインした掲示教材を提案して、その効果について検証を行う。 ・　単元前後に児童の理解度を把握するアンケート調査を実施して、さらに単元終了後に授業担当教員らへのヒアリング調査を実施することで、掲示教材が単元の学習内容の習得・活用にどのように作用したかについて検証する。
B-2	児童へのアンケート調査 授業担当教員のヒアリング調査	学力向上推進協議会	・　４年生社会科および５年生家庭科の授業で学習環境（掲示物、展示物、ワークシート等）を充実・活用した授業を行い、その効果について検証する。 ・　授業時の児童の様子や発言の把握、授業担当教員へのヒアリング調査、授業前後でのアンケート調査を実施して、学習環境の充実が単元の目標に沿った深い学びにどのように作用したかについて検証する。
B-3	児童（4、5、6 年生）を対象とした質問紙調査	学力向上推進協議会	・　現状の掲示物の効果を明らかにする質問紙調査を実施して、毎日眺める掲示内容はどの程度児童の記憶に定着しているのかを検証する。

※適宜行を追加してください。

（２）検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校	比較対象とした理由
千葉市立美浜打瀬小学校 （A-1、B-1、B-2）	なし	
板橋区立板橋第十小学校 （A-2、B-3）	板橋区立小学校 （B-3）	取組協力校の一つで、調査対象となった掲示物の設置状況が異なっていた為。
計２校	計１校	

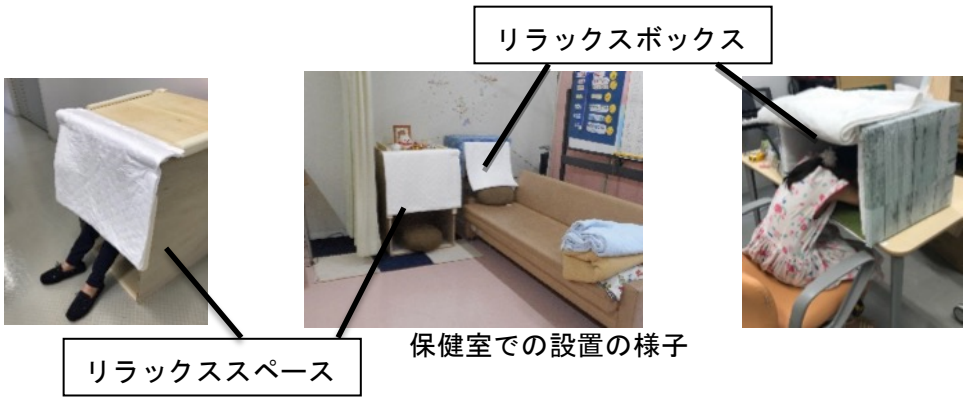
３．考察（本研究が学力向上のために有効な取組であると言えるか）

（１）A-1：特別な支援を必要とする児童の落ち着ける居場所づくり

当該児童が落ち着いて学習に取り組むための一定の効果は把握された。児童の成長や季節に合わせて居場所に変化を加えること、教室とほどよく繋がる場所で設置すること、柔らかいクッションを置くなど安心感が得られる工夫が効果的であることが分かったが、個人差が大きく今後は他事例も含めて検証を続ける必要がある。

（２）A-2：児童が安心して集中できる環境づくり

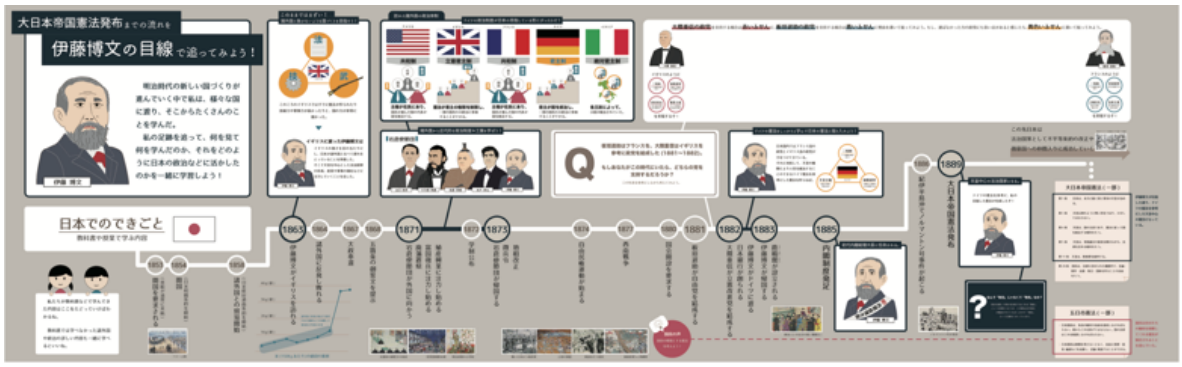
１年生教室、６年生教室、保健室でリラックスボックス（内部に静寂な環境を保持することを意図した頭部のみを入れる箱）を利用した結果、クラスが騒がしくなった時や疲れて集中することができなくなった時に児童が活用して落ち着きを取り戻すなど一定の効果が把握された。また聴覚過敏を有する児童に対しても効果的であった。保健室にはリラックススペース（内部に静寂な環境を保持することを意図した身体全体が入る箱形の小空間）とリラックスボックス、抱きかかえられる大きさのクッションを設置した結果、10 名ほどの児童がそれぞれ週１～２回使用しており、保健室においてもうるさい音が苦手な児童にとって落ち着ける場所として活用されることが確認された。



保健室での設置の様子

（３）B-1：社会的事象への主体的興味を促す掲示物の提案

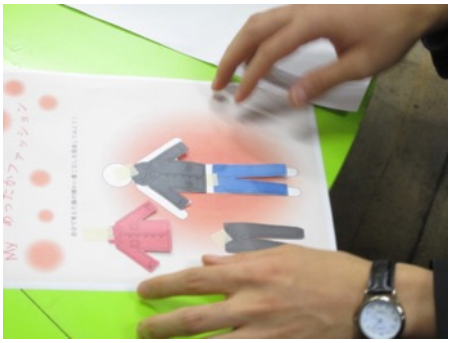
６年生社会科（歴史）「明治の国づくりを進めた人々」の単元でこどもの参加を促すようデザインした大型掲示物（３種類）およびその掲示物を抜粋した教材を提案して、それらを活用した授業を行った。掲示物を提案する前後に児童の学習への興味関心の程度や理解度を把握するアンケート調査を実施した結果、単元への大型掲示物等の導入により、児童の興味、当事者意識などが単元学習前に比べて伸びている状況が把握された。学年を担当する教員（５名）にヒアリング調査した結果、設置場所の要望（児童が日常的に使用する空間への設置）や掲示物の内容として難易度が高かったなどの意見があったが、本研究で提案した掲示物が児童の興味関心を促す効果については一定の評価が得られた。



（４）B-2：児童の主体的な深い学びを促す学習環境の整備

４年生社会科（単元名：千葉県の発展につくした人々～日本地図を作った伊能忠敬～）において、伊能忠敬が用いた測量方法と同様の方法（梵天などを利用した測量）で学校内の距離を計測するとともに、測量精度の高さの確認、現在の日本地図と伊能図の比較、伊能忠敬の足跡を辿る年表（掲示物）などの学習環境を整えた授業を実践した。その結果、児童らは実際に自分で測量することの体験を通して、また伊能忠敬が生きた時代を理解することで、本単元のねらいとする実感を伴った深い学びに繋がった様子が、授業時における観察記録や担当教師からのヒアリングより確認された。

５年生家庭科（単元名：寒い季節を快適に）において、児童らが衣服の着方に関心をもつと共に暖かい着方の工夫について学ぶことを目的に、実験コーナー（服の断面比較、布の粗さ比較、布の厚さと温度比較、夏冬の衣服試着）を準備して、ワークシート（人型の用紙に、準備した様々な衣服類を着せ替えていく）を提案して、それらを活用した授業を行った。その結果、高学年であっても具体的な操作を伴う学習環境では児童の意欲的な活動が持続することや、体験から学んだ知識がその後の生活に活かされている様子が、アンケートや担当教師のヒアリングより確認された。



（５）B-3：掲示物の効果検証に関する調査

取組実施校ですでに整備されている「オリパラ」をテーマにした階段の掲示物に着目して、児童らが毎日階段を利用しながら眺めている掲示内容は、どの程度児童の記憶に定着しているのかをみるために質問紙調査を行った。調査対象は取組実施校と比較対象校（「オリパラ」に関する掲示物を日常的にみる機会はほぼない）の４、５、６年生の児童（取組実施校 241 名、比較対象校 187 名）、調査内容は様々な国の国旗と挨拶「こんにちは」を結びつける問題、オリンピックの開催国や開催年等を記述式解答する問題などで、解答時間は 10 分を目安とした。その結果、すべての項目の正答率において、取組実施校の方が比較対象校よりも高い結果となり、設問 20 項目のうち、14 項目で有意差（$p<.05$）が確認された。本結果より、掲示物は日常的に見るこ

とで一定の効果があることが明らかになった。しかし、記述式問題の正答率が取組実施校において３割程度であることから、ただ掲示物を見ているだけでは、それらの内容は活きた知識として上手く活用されないことが確認できた。

４．課題と今後の研究の方向

全体方針として、2019 年度に実施した研究を引きつづき継続して、把握された課題や問題点の改良を行い、学校内の空間を豊かな学びの場とするための学習環境の改善や工夫について、具体的な提案を行う。その為に、以下の２つのテーマを主軸とした研究を継続する。

●配慮を必要とする子どもを含めた児童が安心・集中できる学習環境の整備

○特別な支援を必要とする児童の落ち着ける居場所づくり

- 個人差が大きくケーススタディを重ねる必要がある。
- これまでの研究成果をあてはめつつ、新たなケースを対象とした研究を継続する。

○児童が安心して集中できる環境づくり

- ひきつづきリラックススペースやリラックスボックス等の提案を行い、音環境に配慮して児童が安心して集中できる環境づくりを実施する。
- 教室内や学校内に静寂な環境を必要とする一定の児童について、周囲の音から逃れて耳を休める場の必要性、気持ちを落ち着かせる場の重要性について、引きつづき検討を行う。

●自発的な学びを促す掲示物・展示物の活用

○児童の主体性や深い学びを促す掲示・展示物の提案とその効果検証

- 児童の学習意欲と理解度の向上を目指した掲示・展示物の提案を行い、その効果について検証する。
- 単に見るだけの掲示物ではなく、授業の問題解決場面などで掲示物や展示物を活用するような実践を行い、学習の効果や間接的指導の有用性について調査を行う。

５．今年度の研究経過

月	内容
６月	連携する自治体を東京都江戸川区から東京都板橋区へ変更 取組実施校（板橋区立板橋第十小学校、板橋区立上板橋第四小学校）を訪問 研究協力校の千葉市立美浜打瀬小学校にて研修会実施
７月	学力向上推進協議会開催 板橋第十小学校、上板橋第四小学校にて研修会実施

	美浜打瀬小学校にて「落ち着く居場所づくり」調査開始
８月	板橋第十小学校にてワークショップ実施 美浜打瀬小学校にてワークショップ実施
９月	板橋第十小学校にて環境調査（アンケート）実施 美浜打瀬小学校にて学習環境づくり（掲示物など）の取組実施
１０月	上板橋第四小学校にてヒアリング調査実施
１１月	板橋第十小学校、上板橋第四小学校にて掲示物の効果検証の調査実施
１２月	美浜打瀬小学校にて学習環境を整備した授業の実践提案（実地調査）
３月	学力向上推進協議会開催

６．研究関係者

（１）学力向上推進協議会構成メンバー

所属	氏名
千葉工業大学	橋本都子
千葉工業大学	倉斗綾子
明治大学	上野佳奈子
東京学芸大学	佐野亮子
コクヨ株式会社	高橋麻子
コクヨ株式会社	齋田清隆

※適宜行を追加してください。

（２）その他関係者

所属	氏名
板橋区教育委員会	中川修一
千葉市立美浜打瀬小学校	今関正次
板橋区立板橋第十小学校	中川久亨
板橋区立上板橋第四小学校	氣田眞由美

※適宜行を追加してください。